

平和で豊かな沖縄県を目指す情報誌

無料

ご自由にお持ち
帰り下さい

沖縄協会だより

2025.2

No.35



辛島一誓 作

天馬飛翔 号数：F100

辛島一誓 大正10年 大分県生

画歴：岡田三郎助主宰の本郷絵画研究所にてデッサン、油絵を学ぶ。戦後、中学校教諭退職、日展・光風会・日水展を経る。靖国神社に戦没将兵慰霊のため歴史画三点奉納。10数回個展。ル・サロン永久会員、日本国際美術協会会員。

制作意図：私も第2次世界大戦で南方を転戦した。部隊に沖縄出身の人が多く、いまでも苦楽をともにした経験が強く胸に残る。沖縄戦も他人ごととは思えない。馬がかかる力強さに平和への思いをこめた。

額サイズ：縦×横×厚【149×181×8.5cm】



沖縄平和祈念堂美術館
所蔵絵画紹介

沖縄協会は、沖縄が本土に復帰するまでの間、各種の援護活動を行った特殊法人南方同胞援護会(昭和31年～47年5月)の後を受けて、昭和47年9月20日に設置された内閣府所管の公益法人です。新たに設立した財団法人沖縄協会は、南方同胞援護会の実績と経験を活用して、沖縄の振興施策に積極的に協力し、平和で豊かな沖縄県の建設に寄与してまいりました。平成23年(2011)4月1日、沖縄協会は内閣総理大臣より公益財団法人として認定を受けて「公益財団法人沖縄協会」として新たな一歩を踏み出しました。これからも、沖縄県の健全な発展と幸福な社会形成に役立つ事業を行いながら、沖縄平和祈念堂を管理運営することで、平和で豊かな沖縄県の建設に貢献していきます。

公益財団法人 沖縄協会

第46回沖縄研究奨励賞・受賞者記念講演

沖縄協会は、令和7年1月22日「第46回沖縄研究奨励賞贈呈式」を開催した。今回受賞した自然科学部門の石井貴広琉球大学教授、人文科学部門の宮城弘樹沖縄国際大学教授、社会科学部門の吉川麻衣子沖縄大学教授に、清水治会長から本賞(賞状楯)と副賞が贈呈された。贈呈式のように受賞記念講演の内容を紹介する。



【受賞者：左から石井貴広さん、宮城弘樹さん、吉川麻衣子さん】

琉球列島の海洋生物資源に着目した新規生物活性物質の探索研究

石井貴広

幼い頃に不思議と自然がつくりだす化合物“天然物”の化学構造に純粋な興味を抱いた。それ以来、学部生時代から天然物化学の「探索・ものとり研究」に従事し、今までに9つもの研究室を渡り歩いた。この間、様々な機能性をもつ天然物「生物活性物質」を取り扱ってきた。平成26年に琉球大学農学部に着任して以降は一貫して、『亜熱帯沖縄産未利用生物資源からの有用生物活性物質の探索』というテーマで研究を推進している。

私は常日頃、ここ沖縄には大きな宝が二つあると思ひ研究・教育活動に従事している。一つ目は、言うまでもなく研究対象となる『生物資源の豊かさ』である。亜熱帯に属する沖縄は、国内の他の地域とは異なる特徴をもった生物種が数多く存在する。また、サンゴ礁が生息する広大な海域を有することから、世界でも有数の海洋生物資源に恵まれた場所である。つまり、ここ沖縄は、医薬品・農薬・化粧品・香料・機能性食品・サプリメントなどの開発に結びつく魅力的な素材が数多く眠っている天然生物活性物質の宝庫である。私は、多種多様な生物活性物質を生産する未利用種(紅藻・アメフラシ・軟体サンゴなど)に着目して探索研究を行ってきた。本講演では、それらの有望な海洋生物資源から発見した新規の生物活性物質を中心に、今までに取得した研究成果の一端を紹介する。

二つ目は沖縄の将来を担う学生たち、つまり『人材』である。『生物資源の豊かさ』を通じて、『人材』を育成し、沖縄の宝を磨いていくことが使命であると考えている。高校

時代に描いた将来の夢は、天然物を用いて人々の生活に役に立つ薬剤を開発することであった。現在、沖縄で学生の指導に努めながら、共に楽しく天然物化学の研究に携わること、その夢に少しずつ近づいている気がする。本研究奨励賞の受賞を励みに、今後もより一層研究と教育に精進し、沖縄の地域振興に貢献できるように鋭意努力したい。



【受賞記念講演】 石井貴広さん

琉球王国時代の考古学研究 〜古墓調査の例を中心に〜

宮城 弘樹

表題のテーマはこれまでも多くの研究者によって築きあげられたもので、今回の受賞は先輩方のバトンを受け継いだ部分も多く、身の引き締まる思いであります。

私自身が、琉球王国時代の研究をスタート

させたのは前職の今帰仁村教育委員会にて「今帰仁城跡」の調査に従事したことが縁だと思っております。そこから、この分野にも関心を持つようになりました。

グスクが城として現役だった時代は、それ以前の社会とは異なり、地域を統括する按司が登場したり、遠方から技術者を招いたり、あるいは中国の立派な陶磁器がたくさん島に運ばれやってくるようになります。その証拠がグスクから発掘される。歴史時代になり、まずと、文献史料でも明らかにされている部分もありますが、遺跡を掘って分かることもたくさんあって、その魅力に引き込まれ今に至っております。私が関心を寄せ、最近取り組んできた研究から3点ほど紹介させていただきます。

1 点目は、島に暮らした狩猟採集民がどのように農耕文化を受容し階級社会へと移行させたのかについてです。「滑石製石鍋」や「遺構」として発見される「建物跡」や「墓」を調べると北から漸次的に広がる農耕文化の島々の受容の様子を検討しました。

2 つ目は、琉球国内の貨幣経済の有無について。遺跡から「銭」が出土するのですが、この時代の貨幣経済がどの程度浸透していたのかについては諸説あって、これを論証しようと試みました。

3 つ目は、「墓」に納められた蔵骨器である「厨子甕」に記載された「銘書」などを調べて、例えば副葬品の「指輪」を誰が、いつどの指に嵌めたのか調べたりしております。

このように沖縄の歴史時代の端的に言えば王国時代の遺構や遺物の研究を行ってきた。ただ、私が魅力と感ずる王国時代の遺跡もしばしば開発の波に消えているのもまた事実です。今後は、研究を通して遺跡の語りを分かりやすく伝えるとともに、長く後世に引き継ぐ遺跡の保全にも貢献できればと考えております。

権威性や支配論理の影響を受けながらも、それらを琉球王権にとって有効に活用できるように一部改変しつつ内面化していたといえる。今後は、このような従属性だけでは説明できない琉球王権の特質の追求についての研究を深めていきたい。



【受賞記念講演】 宮城弘樹さん

沖縄戦を生きぬいた人びとの 体験と想いの継承

戦後80年のいま、渡された バトンとは

吉川麻衣子

このたび、沖縄研究奨励賞という栄えある賞をいただき、心より光栄に感じております。この賞は、沖縄戦の語りを通じて多くのごことを教えてくださった皆様との出会いによるものであり、深く感謝申し上げます。

私が初めて沖縄戦体験者の生の語りに触れたのは、小学生の頃でした。当時、小学校教諭だった翁長安子先生の語りが今でも心に刻まれています。15歳で戦場に立たされた翁長先生は、隊長から「君たちは若い。生きてくれ。生きてこの戦であったことを伝えてくれ」と言われたその想いを大切にしてくださいました。その言葉に触れた私は、いつしか「伝える」という使命を抱くようになりました。

琉球大学の卒業論文では、沖縄県の高齢者を対象に戦争体験の回想に関する研究を行いました。その調査では、「戦時を思い出して眠れなくなる」と回答した人が約3割に上り、後の研究では、「もし戦争がなかったら今よりも幸せになれたと思う」が52・7%、「戦争によつて多くのものを失ったと感じている」が69・1%に達しました。また、基地のことを見聞きすると沖縄戦を思い出すと答えた人が82・8%に上り、戦後半世紀以上が経過してもなお、戦争の記憶が心に根強く残っていることが明らかになりました。

同時に、体験者の中には「戦世を生き抜いた者同士で安心して語り合える場を創りたい」と願う人びとがいることもわかりました。こうした声に応える形で、地域に「戦争体験の語り合いの場」を立ち上げました。20年にわたるこの活動では、メディアや体験記には表れない、長年語ることを避けてきた人びとが自らの記憶を語り始めました。なぜ、彼らは語ることを望んだのか。そして、何を語り合ったのか。それを本講演でお伝えしたいと考えています。

さらに、平和な社会があつてこそ人びとの心の平穏が保たれるということを、臨床心理士の立場から訴えたいと思います。戦後80年を迎える今、沖縄戦を生きぬいた人びとの体験と想いを未来へどのように繋いでいくのか。そのために私ができることは何かについても、思いを馳せてみたいと考えています。



【主催者挨拶】 清水治沖縄協会会長



【受賞記念講演】 吉川麻衣子さん

★戦後80年 音楽で繋げる未来

「平和の音願(ねがい)コンサート」

1月26日、戦後80年 音楽で繋げる未来平和の音願(ねがい)コンサート(主催:エトワールプリンスミルヒとタヒチ)が平和祈念堂で開催され、約120人の聴衆が訪れた。コンサートの趣旨は「戦後80年の節目の年。世界中ではまだ戦争がおこり、大きな自然災害でたくさん尊い命が失われている。そのものたちへの鎮魂と、これからの平和を願い、世代やジャンルを越えた音楽家たちによるコンサート」とあり、出演は、Etioile Prince(箏奏者の大川義秋とハープ奏者の小林秀史)にミルヒとタヒチ(声楽家の宮平真希子と樋渡かおり)のふた組のユニット。そして、スペシャルゲストにジョージ紫さんが出演した。コンサートでは、美しい歌声に、箏やハープなどの演奏が織り広げられ聴衆を魅了した。



コンサートのようす

★平和集会における折鶴の奉納

沖縄平和祈念堂には県内外の小・中・高等学校の児童生徒が平和学習に訪れており、1月23日に沖縄県名護市立大宮小学校の児童(127人)による平和集会が行われた。



折鶴とメッセージ

平和集会に先立ち、児童たちは悲惨な戦争を追体験するため、1フット運動推薦・沖縄戦40周年記念記録映画「戦場ぬ童(いこご)ばぬわらび」を鑑賞した。平和集会では、児童一人一人が戦没者慰霊と恒久平和の祈りを込めて折り上げた折鶴とメッセージを児童代表が沖縄平和祈念堂に奉納し、あわせて全員で黙とうを捧げた。



協会関係事業他
募集案内など

★沖縄平和祈念堂改修工事に伴うご寄付のお願い

開堂から46年を迎えた沖縄平和祈念堂では、現在、経年劣化による改修工事を頻繁に実施しております。今後、さらに工事の必要が考えられますので、多くの皆様に諸経費に對するご寄付を賜りますようお願い申し上げます。ご連絡いただきましたら、ゆうちょ銀行専用の振込票を郵送させていただきます。

公益財団法人 沖縄協会

【電話番号】03-6231-1433】

【FAX】03-6231-1436】

※詳細は、公益財団法人沖縄協会のホームページより



syncable(シンカブル)



沖縄平和祈念堂美術館

沖縄を描く：沖縄をモチーフにした作品 10

辺戸岬三月 斎藤政一 作

斎藤政一 大正14年 埼玉県生

画歴：埼玉師範学校卒、田崎廣助に師事。日展特選2回、第10回一水会展入選、一水会会員推挙、会員佳作賞、会員優賞、安井賞候補展出品、日展審査員。一水会常任委員、日展会員。

額サイズ：縦×横×厚【40×49×5cm】

号数：F4

